

第11回 南三陸町震災復興計画推進会議

と き 平成26年9月24日（水）
18:00～20:00
ところ 南三陸町志津川保健センター
2階大会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 会 議

- (1) 椿物語とグラウンドゴルフの活動状況について（報告）
- (2) 南三陸町 住環境の向上に関する提案書（案）について
- (3) 第11回復興計画推進会議のテーマと進め方

- 4 閉 会

（資料）

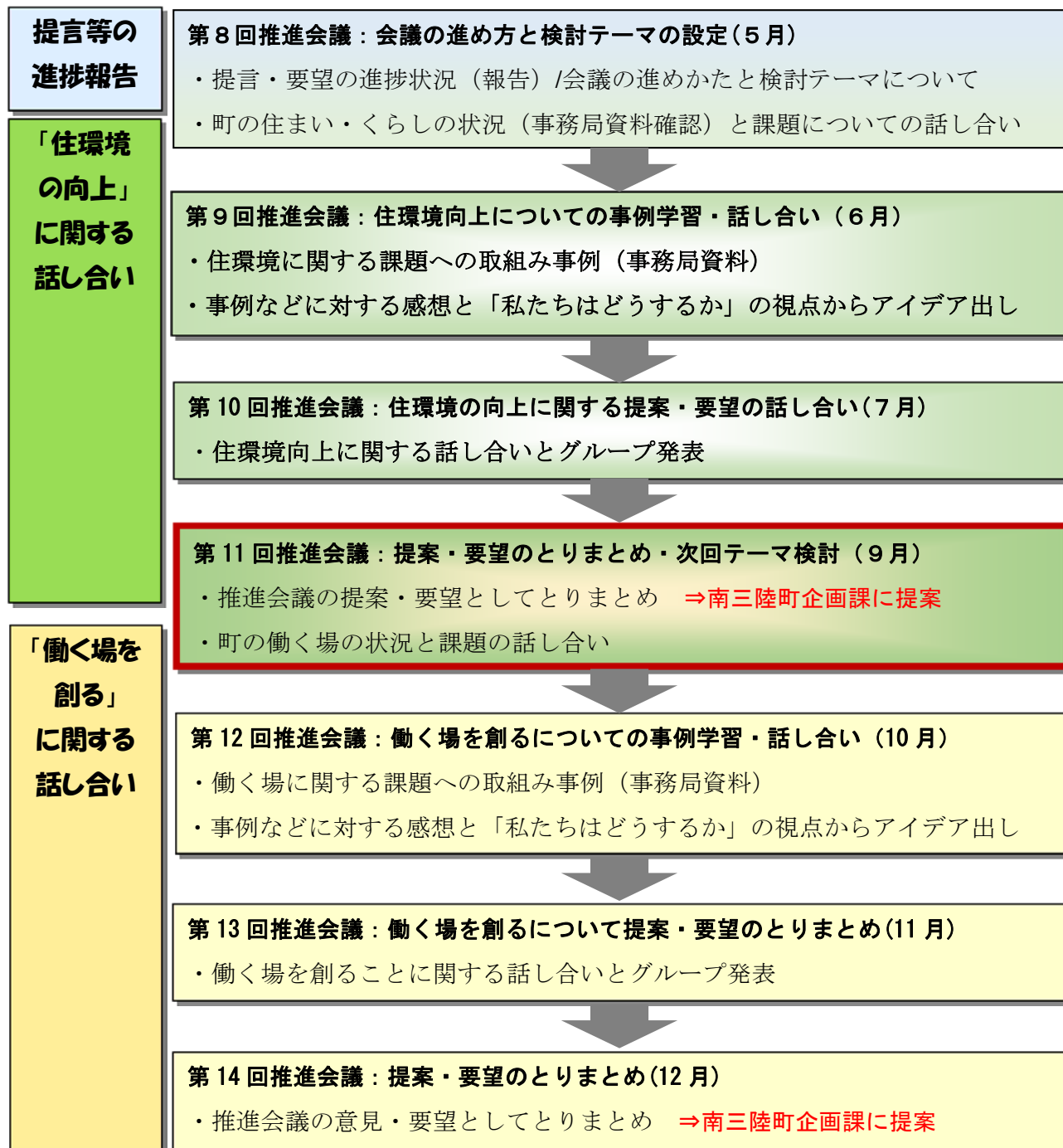
- ・資料1 南三陸町 住環境の向上に関する提案書（案） 1
- ・資料2 第11回復興計画推進会議のテーマと進め方 8

第12回 復興計画推進会議の予定：

平成26年10月17日（金）、または、27日（月） 18:00～20:00

平成26年度の復興計画推進会議のテーマと進め方

1. 第11回推進会議の進め方と検討項目案



2. 第11回会議の検討テーマ

震災の影響により町外に流出した人を呼び戻し、南三陸町への定住を促進していくためには、便利で快適に暮らせるよう住環境の向上を図っていくとともに、暮らしを支え、やり甲斐を持って働ける場を確保していく必要があります。

このようなことを前提に、**南三陸町でやり甲斐を持って働ける場**を創出していくためのアイデアを考えて行きたいと思います。

そこで、働くことに焦点を当てて、以下のような視点から震災前・震災後の状況をご紹介します。

震災前

- どのような働き方をされていたのか
- どこで働いていたのか

震災後

- 南三陸町の働く場はどのような状況か
- 求人や求職はどのような状況か

《南三陸町の働く場の状況》

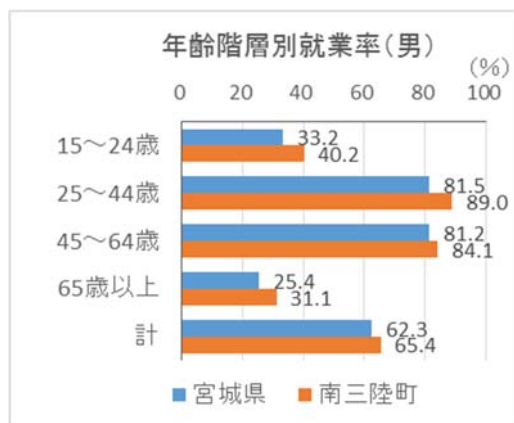
(1) 震災前の就業状況

①就業状況

●男性・女性ともに仕事をしている人の割合が比較的高い

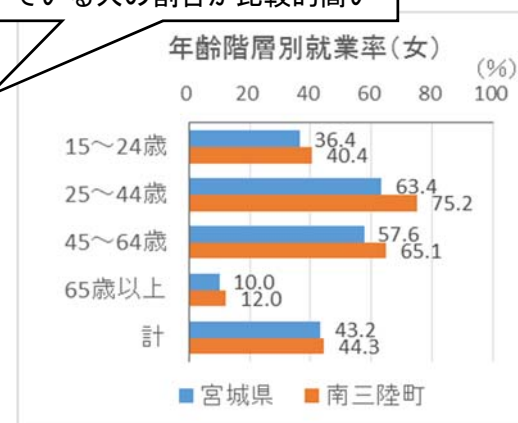
- ・南三陸町の実業率は、各年齢階層ともに宮城県全体の就業率を上回っており、特に 25～44 歳で宮城県全体との差が大きくなっている。

【図 1-1 性別年齢階層別就業状況】



資料：平成 22 年国勢調査

男性・女性ともに、仕事をしている人の割合が比較的高い



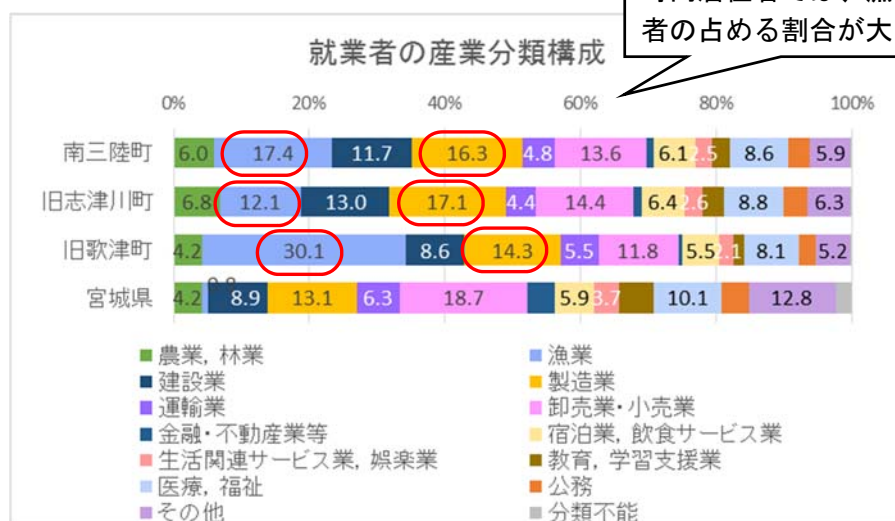
※就業率：15 歳以上人口のうち、実際に働いている人の割合

②就業者の産業構成

●漁業や水産加工を中心とした製造業に従事する人が比較的多い

- ・漁業に従事している人が南三陸町全体で 17.4%を占め、宮城県全体と比べるとその割合が高いことがうかがえる。特に、旧歌津町では仕事をしている人のうち 3 人に 1 人が漁業に従事していたことが分かる。

【図 1-2 就業者の産業構成】



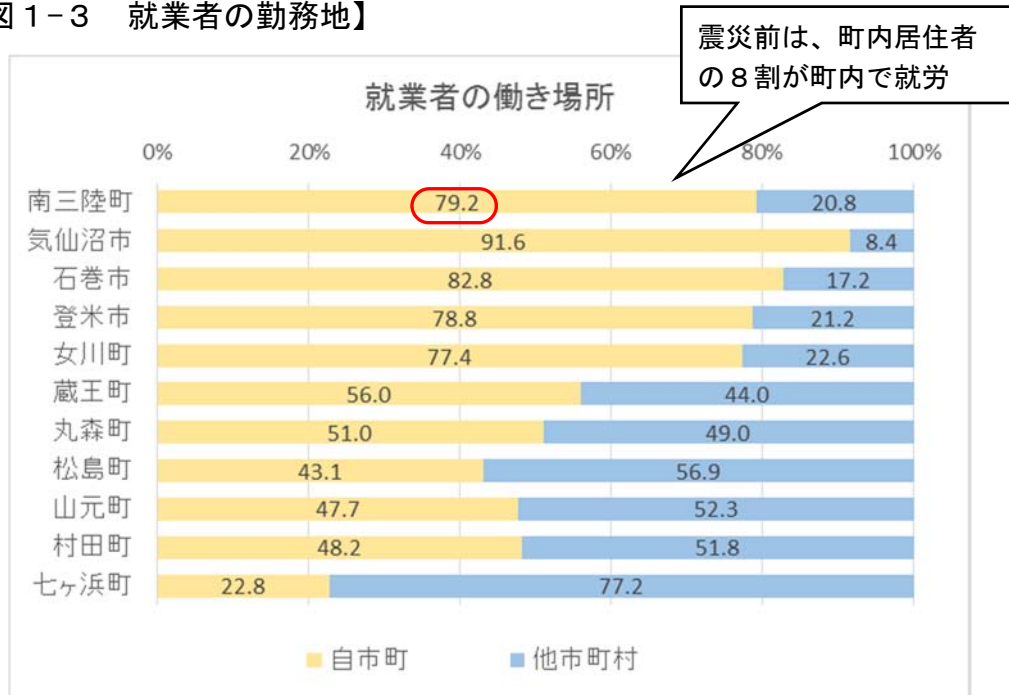
町内居住者では、漁業従事者の占める割合が大きい

③就業者の勤務地

●南三陸町内で働く人が約8割を占める

- ・南三陸町の就業者の勤務地をみると、町内で働く人の割合が 79.2%を占め、他の沿岸地域と同様にほとんどの人が町内で働いていたことが分かる。

【図 1-3 就業者の勤務地】



資料：国勢調査

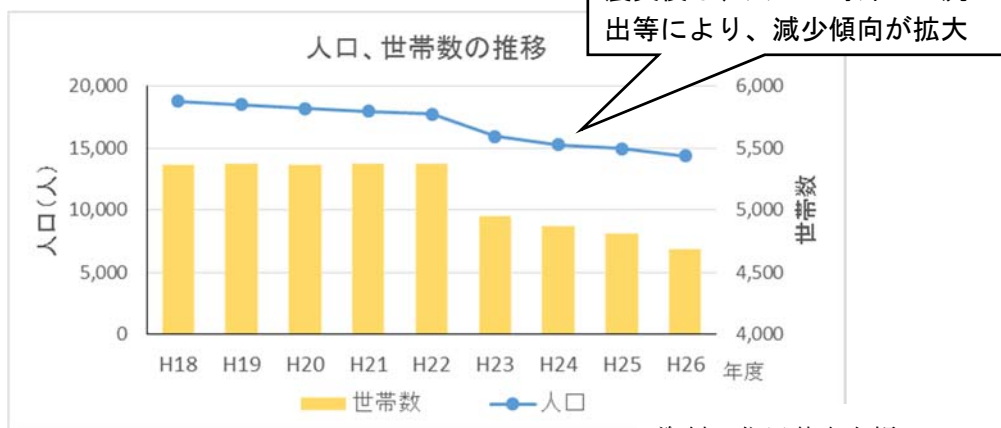
(2) 震災後の状況

①人口の動向

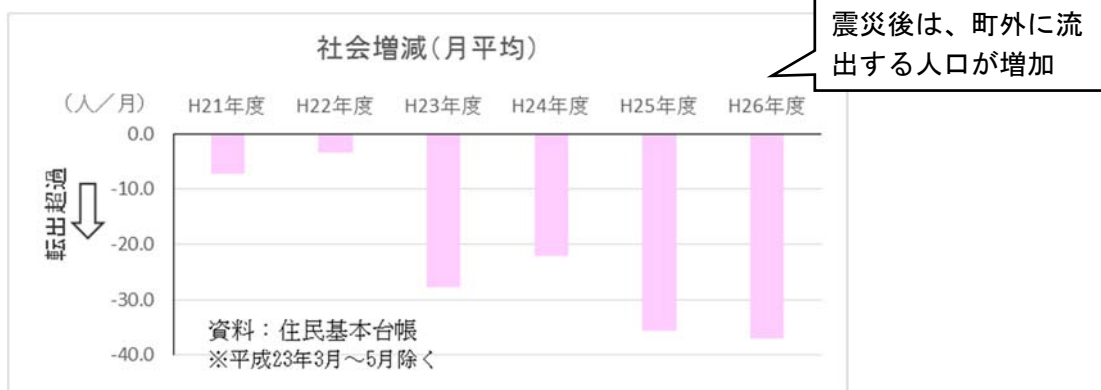
●町外への人口の流出等に伴い、労働力の低下が懸念される

- ・南三陸町の人口は、震災前から減少傾向となっていたが、震災後は、町外に移転する世帯の増加等により、震災前に比べて減少傾向が強くなっている。
- ・特に、25～44歳の人口の減少率が大きい。

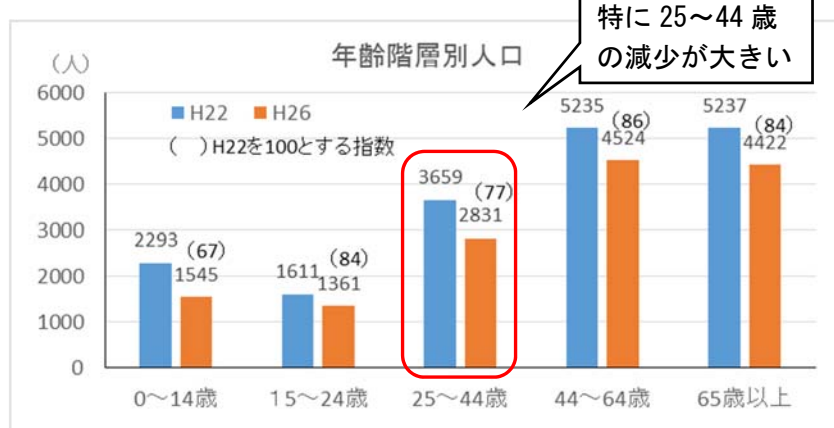
【図2-1 人口、世帯数の推移】



【図2-2 社会増減の状況】



【図2-3 年齢階層別にみた人口の変化】

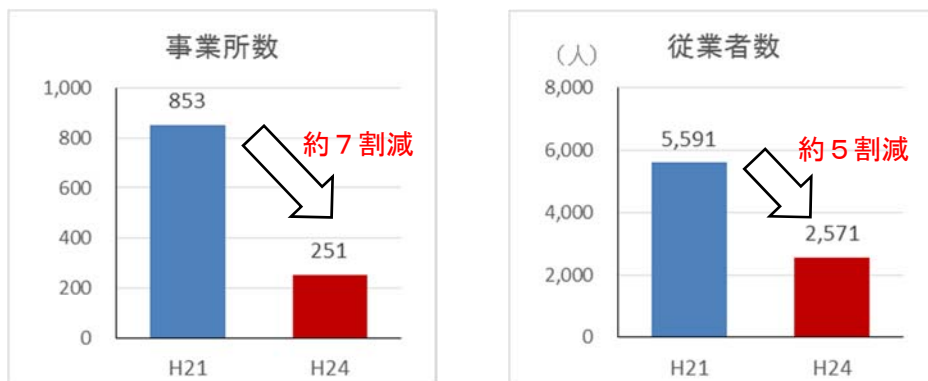


②働く場の状況

●震災後は事業所数が大きく減少している

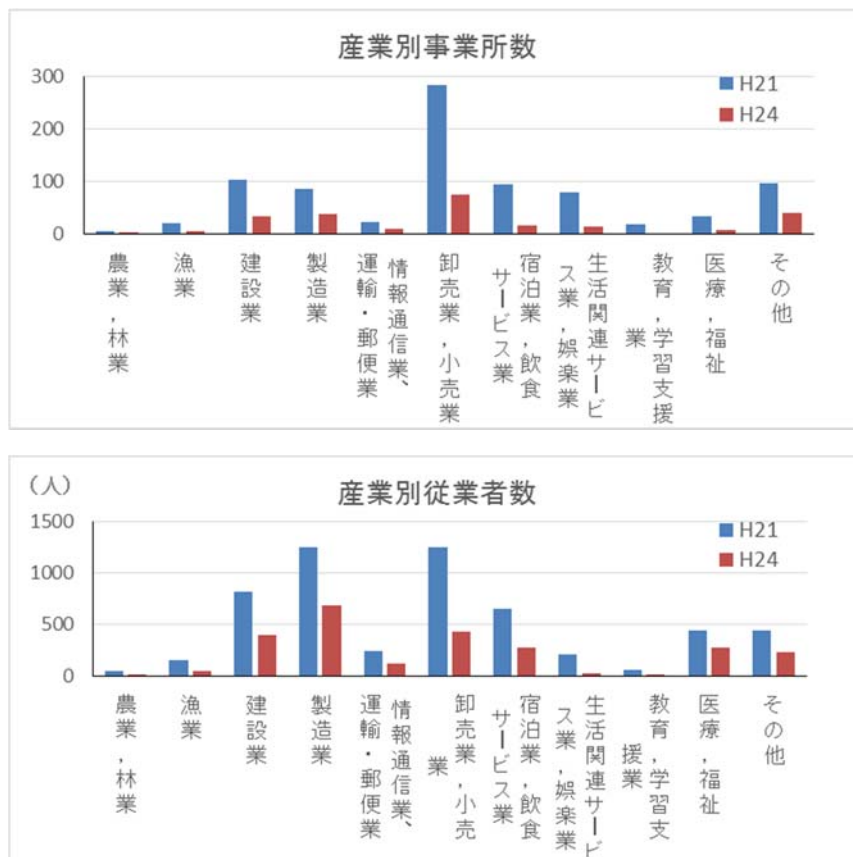
- ・震災後（H24）における町内の事業所数は、震災前（H21）に比べて約7割減少しており、特に卸売・小売業における事業所数の減少が大きい。
- ・商工会会員における現状の事業再開率は、55%（H26.3.31）となっている。

【2-4 事業所数、従業者数の変化（民営）】



資料：経済センサス

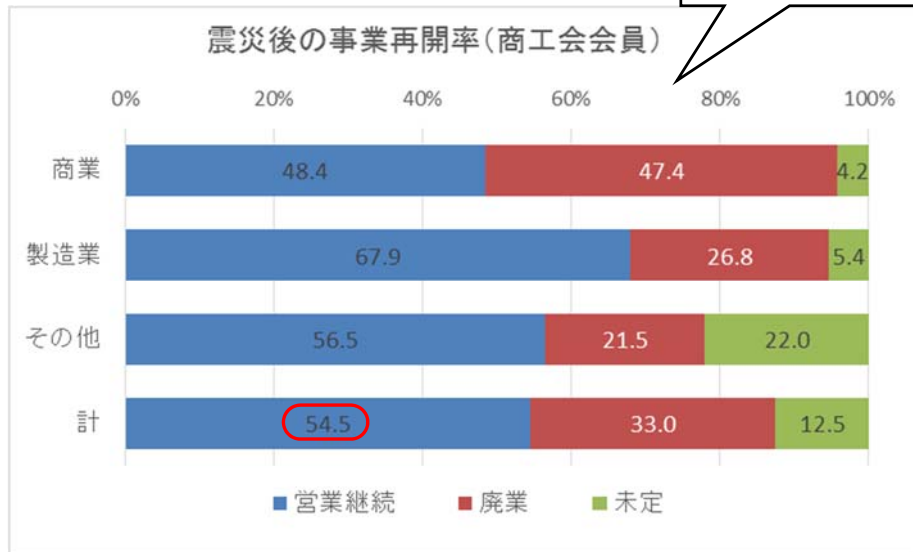
【2-5 産業別事業所数、従業者数の変化（民営）】



資料：経済センサス

【2-6 震災後の事業再開状況（商工会会員）】

商工会会員の事業再開率は55%



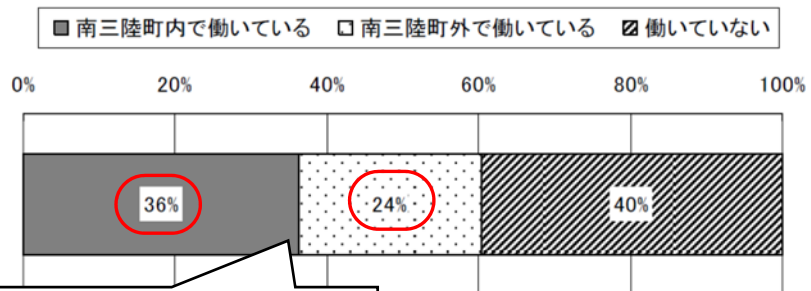
資料：「東日本大震災被災商工業者営業状況調査」

(宮城県、平成 26 年 3 月 31 日現在)

調査対象：商工会会員

《参考：震災直後の町民の意向》

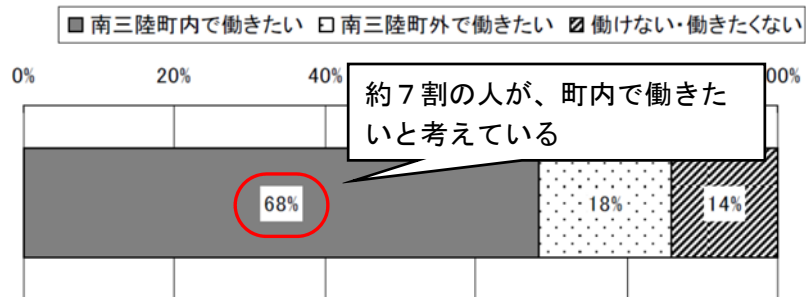
【震災直後の就業状況】



N=3139

震災直後は、町内で働いている人が36%、町外で働いている人が24%

【今後の就業意向】



N=2611

約7割の人が、町内で働きたいと考えている

※資料：「南三陸町の復興まちづくりに関する意向調査」(平成 23 年 11 月)

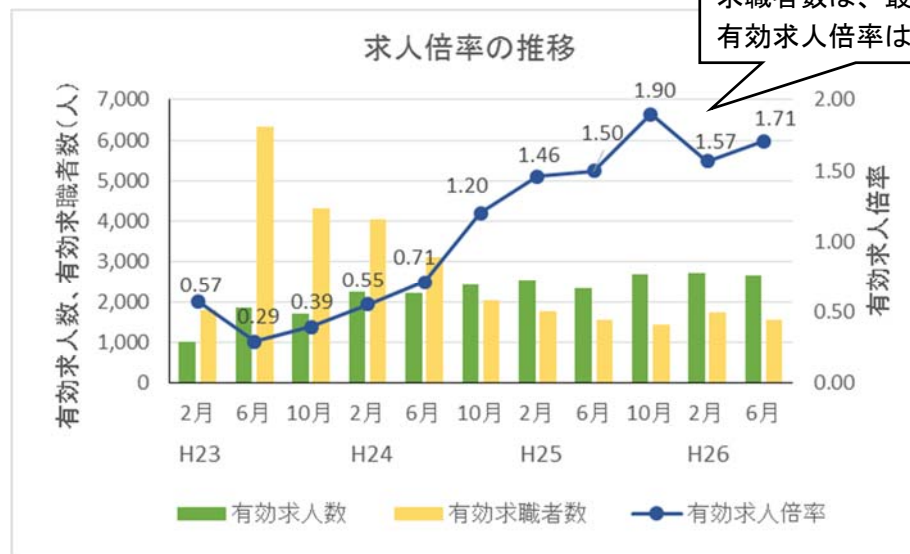
③求人・求職状況

■ハローワーク気仙沼署（所轄区域：気仙沼市、南三陸町）の状況

●一定の求人はあるものの、求人と求職のミスマッチが生じている

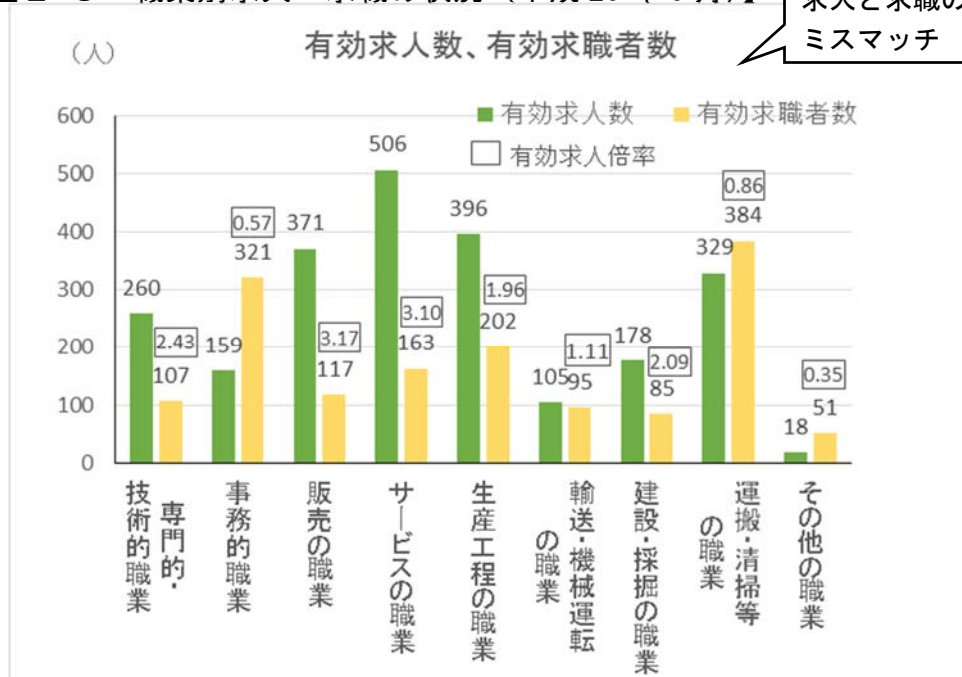
- ・震災後、求職数は減少傾向にあったものの、最近はやばい傾向が続いている。
- ・全体としては、求人数が求職者数を上回っているものの、職種によって求人数と求職者数のバランスに大きな差があり、必ずしも希望に合った働き先が得られるとは限らないことがうかがえる。

【図 2-7 有効求人倍率の推移】



資料：宮城労働局

【図 2-8 職業別求人・求職の状況（平成 26 年 6 月）】



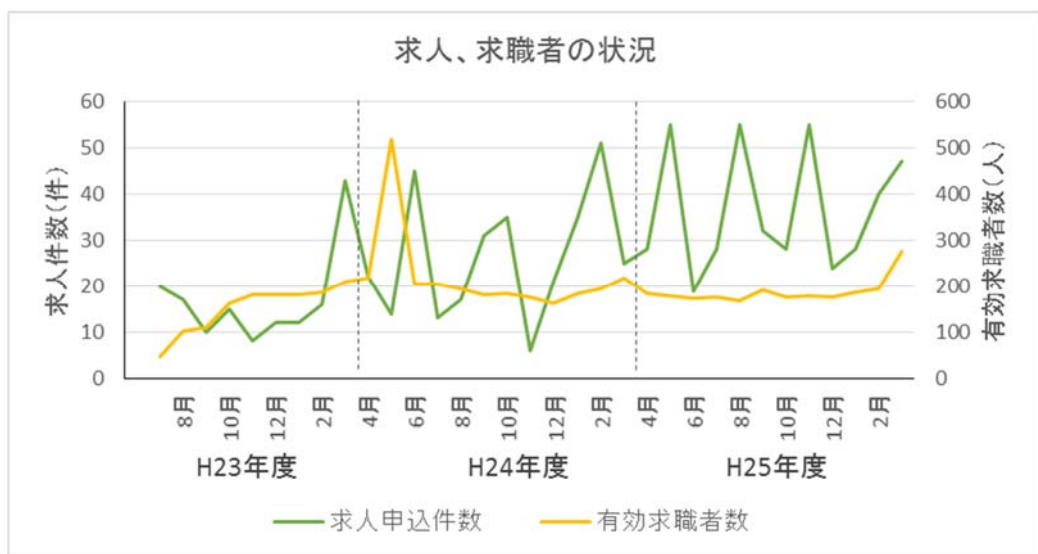
資料：宮城労働局

■南三陸町無料職業紹介所の状況

●求人件数は増加傾向にあるが採用決定者数は減少傾向にある

- ・ 求人件数は月によって変動があるが、少しずつ増加してきている。
- ・ 有効求職者数はほぼ横ばいの状況が続いており、依然として職を求めている人が減少していないことがうかがえる。
- ・ 一方で、無料職業紹介所の相談・紹介者数は、概ね横ばいあるいは緩やかに減少してきており、求職者の希望に合った求人先が少ない可能性がうかがえる。

【図2-9 求人・求職者数の推移】



資料：南三陸町

【図2-10 無料職業紹介所の利用状況】



資料：南三陸町

(第二種郵便物認可)

人手確保厳しい現実

南三 陸町 合同就職説明会空席目立つ

南三陸合同企業説明会が17日、南三陸プラザで開かれた。人手不足を解消しようと、当たったが、訪れた求職者はわずか28人。人

空席が目立つ説明会の会場

材確保が難しい状況をうかがわれた。説明会は水産加工業、造船鉄工、観光などグループ補助金を受けて事業を再開させた企業らで組織するグループ補助金共同事業連携協力会と、南三陸商工会が初めて開いた。

会場では各企業、事業所がブースを設けて個別面談を実施。求職者に対して事業内容などを説明した。しかし、訪れる求職者はまばらで、開始の

午前10時から1時間では面談を受けたのはわずか4〜5人ほど。説明会は午後3時まで行われたが、各社のブースは終始空席が目立っていた。ある水産加工業の担

当者は「震災前より工場を広げたが、現在の従業員数は震災前より少ない。町内に住んでいる人が減ったこともあるが、臨時職員などに人材が流れている。行政サイドで調整すべき」と指摘。「こうした状況が続けば企業が減ってしまうのでは。機械化を考えているが、そつすれば人のいるない仕組みを作ってしまうことになる」と話していた。

商工会によると、チラシ配布やラジオCMなどで説明会開催をPRし、事前の問い合わせが町外からも来ている。高卒の内定率が高いことや時期的なものもあるし、多くはないことは予測していたが、「と担当者。説明会は今後も継続的な開催を検討していくという。ようやく再建した各事業所だが、このまま人手不足が続けば、復興も厳しくなりそうだ。

震災教訓後世に

市民憲章推進の集い 小、中学生が作文朗読 松岩地区

気仙沼市民憲章推進協議会松岩地区部会（及川貞子部会長）の市民憲章推進の集いが17日、松岩公民館で開かれた。地区民ら約1

小山選手さんと松岩中2年の齋藤元希さんが朗読した。2人は震災経験を振り返り、小山さんは「自分のことだけでなく、回りのことを考え、自分にできる努力をしていく」、齋藤さんは「二度と震災で犠牲者を出さないために、震災のつらさを

一わせは宮城労働局職業沼コールセンター 医

作文は地区内の小、中

(3) まとめ

